

大連友好記念館

このレンガ、石、木で造られた建物は、北九州市と中国・大連市との友好協定締結 15 周年を記念して 1994 年に建設された。この協定は、両者の複雑な歴史において良い転機となった。大連市は英語で「ポート・アーサー」と呼ばれ、1895 年から 1955 年までの間、中国、ロシア、日本の間で何度か統治権が行き来した。門司は、特に日清戦争（1894-1895）の間、日本と大連を結ぶ重要な港であった。

2 階はパブリックスペースとなっており、大連に関する作品や資料が展示されており、その中には中国語と日本語の入門ビデオもある。

本格的な建築

この建物は、ロシア人の都市管理者に雇われたドイツ人建築家によって 1902 年に設計された大連の鉄道事務所をモデルにしている。この建物の建築様式は、その多国籍なルーツを反映している。急勾配の高い塔の屋根やハーフティンバーの壁などといったロシアやドイツの特徴がはっきりと見られ、瓦を重ねていく日本式とは異なる、織り合わされた曲線の瓦が連なる中国式の屋根も見られる。

この鉄道事務所が選ばれた理由は、その美しさ、希少性、歴史的価値であり、設計を可能な限り忠実に再現するために多大な努力が払われた。オリジナルの設計図は紛失していたため、建築家たちは大連に赴き、現存する建物の寸法を入念に測った。建材として、元の採石場からとられた石材や煉瓦が大連から輸入された。このプロジェクトでは両市と国家間の緊密な協力が必要であったが、再現されたこの建物は、両市の複雑な歴史にもかかわらず、友好のシンボルとなっている。